

地域の力が、日本の未来を切り拓く

DISCOVER MURA no TAKARA

 ディスカバー 農山漁村の宝

7th
選定事例集
MAFF



お問い合わせ先 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

tel 03-3502-6002 (直通) fax 03-3595-6340

「ディスカバー農山漁村の宝」ホームページ

[URL] <https://www.discovermuranotakara.com>



事例に関するお問い合わせや本事例集に関する御意見等がございましたら、
上記又はお近くの地方農政局（沖縄県につきましては沖縄総合事務局）まで御連絡ください。

「ディスカバー農山漁村の宝」 グランプリ及び部門賞について

平成26年(第1回選定)からスタートした「ディスカバー農山漁村の宝」は、令和2年選定(第7回選定)として、7月1日から約2ヶ月間公募し、合計794件の応募の中から団体部門(コミュニティ部門及びビジネス部門)として28地区と、個人部門として4名を選定しました。

また、選定された28地区及び4名の中からさらにグランプリ及び部門賞(準グランプリ「コミュニティ部門」2地区、準グランプリ「ビジネス部門」2地区、個人賞1名)を決定しました。



グランプリ



準グランプリ

コミュニティ部門

関係者の連携による活動で地域に活力をもたらし取組等



準グランプリ

ビジネス部門

事業化を通じて所得向上や雇用を生み出す取組等



個人賞

地域でリーダー的な活躍をしている者等

岐阜県立岐阜農林高等学校流通科学科

岐阜県
北方町

地域農家にGAP認証のノウハウを公開するなどの支援を行い、農家のGAP認証取得に貢献。GAP認証活動面積は、2.5ha(平成29年度)から63ha(令和元年度)まで拡大。官民一体となり、オリパラのホストタウンとしてGAP食材を使ったおもてなしを企画。GAP認証の柿によるパスタ開発、品質管理を徹底した新品種米の普及等を行う。内閣官房や農林水産省が実施するコンクール等において多くの受賞履歴あり。

北海道美幌高等学校

北海道
美幌町

特定外来生物ウチダザリガニの駆除活動を通じ、網走川流域の自然環境の改善や地域住民との交流会等により流域環境の保全活動を広く発信。水系での活動範囲は2km²(平成27年度)から60km²(令和元年度)に大幅に拡大。交流会等の参加人数も15人から500人に増加。

株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ

山口県
山口市

6次産業化を達成している畜産業者が、近隣農家とともに鶏に食べさせる餌まで作る、7次産業化の取組を実施。飼料用米の生産・活用により、耕作放棄地の解消や環境・景観の保全、地域資源を活用した循環型農業の実現に貢献。飼料用米の作付面積は、80ha(平成27年度)から134ha(令和2年度)に増加。

有限会社マルセンファーム

宮城県
大崎市

栽培が難しい高糖度トマトを経営の柱とし、「極上デリシャス」として差別化。菊やホウレンソウとの複合経営で安定雇用を実現。高糖度トマト以外にも果汁糖度で選別規格を定めたプレミアムトマトジュースを販売。最高級のジュースは1万5千円/本で販売。アルコールを摂取できないパイの富裕層の取り込みにも成功。

GOTTISO阿波

徳島県
阿波市

地域のPRや食育、農業・野菜の魅力を発信し、所得向上や農業人口の増加を目指して活動。地元ブランド野菜を使った地元幼稚園・小学校での食育や、グローバルGAPの取得を実施。地元ブランドである「GOTTISO美〜ナス」の生産量は、48t(平成27年度)から150t(令和元年度)に増加。

石垣 一子

秋田県
大館市

農業体験や本場のきりたんぼづくり体験を核とした農泊等の受け入れ推進を図り、地域の活性化に努力。官民共同の「大館市まるごと体験推進協議会」の会長として、自ら台湾に向いてPRキャンペーンを実現。外国人の宿泊者は、0人(平成28年度)から268人(令和元年度)に増加し、インバウンドの受け入れに貢献。

「ディスカバー農山漁村の宝」の概要

趣旨

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

有識者懇談会委員(五十音順、敬称略)



あん・まくどなると
上智大学大学院教授
慶応義塾大学特任教授



今村 司
(株)読売巨人軍
代表取締役社長



織作 峰子
大阪芸術大学教授
写真家



田中 里沙
事業構想大学院大学学長
(株)宣伝会議取締役



永島 敏行
俳優
(有)青空市場代表取締役



林 良博
国立科学博物館館長



藤井 大介
(株)大田原ツーリズム
代表取締役社長
(株)ファーム・アンド・
ファーム・カンパニー
代表取締役社長



三國 清三
オテル・ドゥ・ミクニ
オーナーシェフ



向笠 千恵子
フードジャーナリスト
食文化研究者
郷土料理伝承学校校長



横石 知二
(株)いろどり
代表取締役社長

ロゴマーク



農村をイメージした「稲穂」と漁村をイメージした「海・波」、農山村をイメージした「山」をモチーフにしたデザイン。

【制作者：濱中 幸子氏(グラフィックデザイナー)】

「ディスカバー農山漁村の宝」 ウェブセミナーを開催

令和2年度(第7回選定)においては、令和3年3月2日にオンラインにて、「全国の事例から学ぶ農山漁村のみらい」をテーマとしたウェブセミナーを開催し、農林水産大臣、内閣府特命担当大臣(地方創生担当)から祝辞をいただきました。

第1部では、今年度選定された優良事例の表彰とともに、グランプリ及び部門賞の受賞者から取組発表を行い、第2部では、「農業」「漁業」「まちづくり」などの分野において新たな切り口で農山漁村を盛り上げている若手事業者によるトークセッションを行いました。国内のみならず海外からも含め、約1,000人の参加をいただきました。



農林水産大臣より祝辞をいただきました



内閣府特命担当大臣(地方創生担当)より祝辞をいただきました



林産長よりグランプリ及び部門賞の紹介祝辞をいただきました



▲選定団体より取組内容の発表



◀若手事業者によるトークセッション



▲田中委員による進行のトークセッション



ウェブセミナーに参加したグランプリ・準グランプリ・個人賞の皆様

情報発信の取組

令和2年度においてはオンラインを活用した情報発信を実施いたしました。

「お取り寄せ実食レポート」をテーマに記事広告を3回掲載(5月・10月・12月)、選定団体のPR動画制作、第7回選定地域・選定者の取組PR動画のオンライン配信などを実施しました。



メディアサイトに掲載



動画の制作およびSNS配信



サイト内に特設ページを開設しオンラインで配信

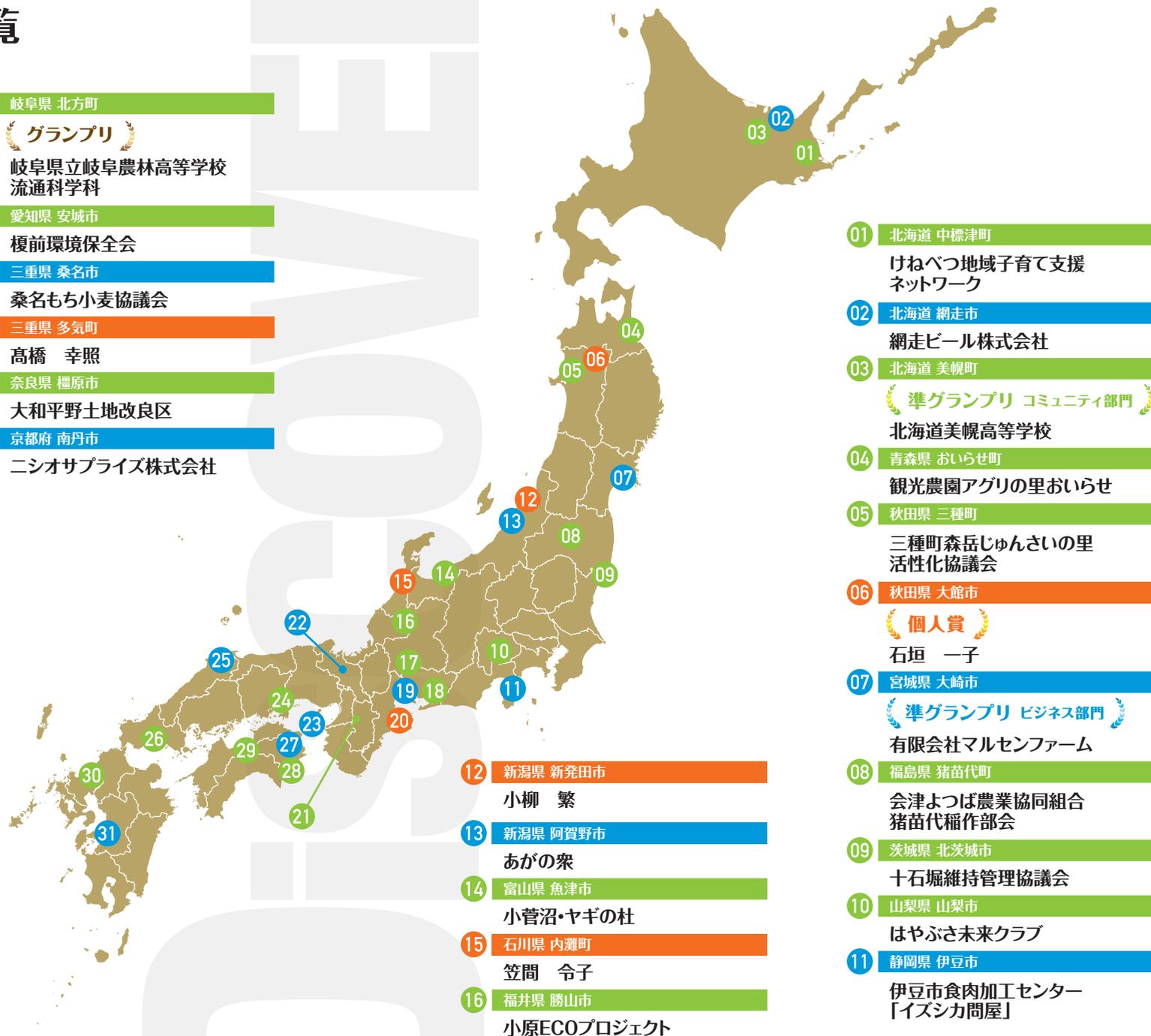
「ディスカバー農山漁村の宝」(第7回選定)

選定地区及び選定者一覧

- 23 兵庫県 南あわじ市
福良漁業協同組合
- 24 岡山県 瀬戸内市
裳掛地区コミュニティ協議会
- 25 島根県 松江市
株式会社ウッドスタイル
- 26 山口県 山口市
準グランプリ コミュニティ部門
株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ
- 27 徳島県 阿波市
準グランプリ ビジネス部門
GOTTSO阿波
- 28 徳島県 那賀町
木沢林業研究会
- 29 愛媛県 四国中央市
愛媛県立土居高等学校
情報科学部
- 30 福岡県 糸島市
株式会社いとしのいとしま
- 31 熊本県 人吉市
郷土の家庭料理 ひまわり亭
- 32 沖縄県 宮古島市
しろう農園株式会社

- 17 岐阜県 北方町
グランプリ
岐阜県立岐阜農林高等学校
流通科学科
- 18 愛知県 安城市
榎前環境保全会
- 19 三重県 桑名市
桑名もち小麦協議会
- 20 三重県 多気町
高橋 幸照
- 21 奈良県 橿原市
大和平野土地改良区
- 22 京都府 南丹市
ニシオサプライズ株式会社

「コミュニティ部門」選定地区
 「ビジネス部門」選定地区
 「個人部門」選定者



- 01 北海道 中標津町
けねべつ地域子育て支援ネットワーク
- 02 北海道 網走市
網走ビール株式会社
- 03 北海道 美幌町
準グランプリ コミュニティ部門
北海道美幌高等学校
- 04 青森県 おいらせ町
観光農園アグリのリおいらせ
- 05 秋田県 三種町
三種町森岳じゅんさいの里
活性化協議会
- 06 秋田県 大館市
個人賞
石垣 一子
- 07 宮城県 大崎市
準グランプリ ビジネス部門
有限会社マルセンファーム
- 08 福島県 猪苗代町
会津よつば農業協同組合
猪苗代稲作部会
- 09 茨城県 北茨城市
十石堀維持管理協議会
- 10 山梨県 山梨市
はやぶさ未来クラブ
- 11 静岡県 伊豆市
伊豆市食肉加工センター
「イズシカ問屋」
- 12 新潟県 新発田市
小柳 繁
- 13 新潟県 阿賀野市
あがの衆
- 14 富山県 魚津市
小菅沼・ヤギの杜
- 15 石川県 内灘町
笠間 令子
- 16 福井県 勝山市
小原ECOプロジェクト

けねべつ地域 子育て支援ネットワーク

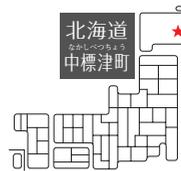


「えみふる」での一時預かりの様子

コミュニティ部門

女性の活躍

子育て支援



〒088-2682 北海道標津郡
中標津町計根根本通東 3-17-1
計根別農業協同組合

tel 0153-78-2111

fax 0153-78-2556

mail tomoki.konno@kenebetsu.
ja-hokkaido.gr.jp

実態調査の様子



親子サロンの様子

概要

- ◆ 行政機関（道・町）、JA、NPO 法人の 4 者が連携し、先進地の視察や農家への実態調査を実施。この結果を踏まえて「親子サロン」を開催し、女性農業者が持つ、子育てと酪農を両立することへの悩みや不安について意見交換。
- ◆ JA 所有の遊休施設を児童館機能と一時預かりを一元的に行う「えみふる」へ改修し、子育て世代の農業者を支援。

成果

- ◆ 幼稚園入園前の子育て支援に対する女性農業者からの強い要望を受け、一時預かりや出張託児を実施。
- ◆ 一時預かりは、農業者が優先利用できる仕組みになっており、令和元年度では約 1,000 人の実績、地域に欠かせない存在に。

あばしり 網走ビール株式会社

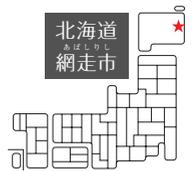


網走の産品や特徴を活かした商品

ビジネス部門

6次産業化

輸出

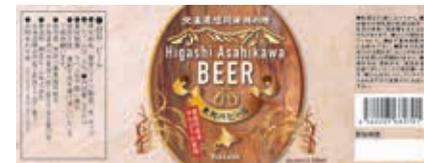


〒093-0016 北海道網走市
南 6 条西 2 丁目 2 番地

tel 0152-45-5100

fax 0152-45-5101

mail nagaoka@asb-beer.co.jp



東旭川からの依頼で醸造した PB 商品ラベル



輸出に取り組む優良事業者表彰（北海道農政事務所主催）

概要

- ◆ 監獄や先住民モヨロ人をラベルに採用、「流水」を仕込水に使った、地域の特性を活かした商品づくりにより、網走の認知度向上。
- ◆ 醸造設備に併設した「YAKINIKU ビール館」では、地元産和牛「あばしり和牛」や道産素材を使った料理で網走ビールを提供。

成果

- ◆ 年間 100 万本以上の商品を製造し、道外へ 60% を販売、海外輸出にも積極的に取り組み、10% をアジア圏や欧州へ出荷し、網走の認知度向上に貢献。
- ◆ 近年は、地元企業や団体からの依頼を受けた PB（プライベート・ブランド）商品の醸造も。



北海道美幌高等学校

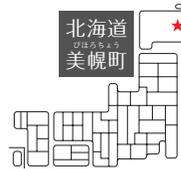


網走湖環境調査

コミュニティ部門

若者の活躍

環境保全



〒092-0017 北海道網走郡
美幌町字報徳 94 番地
北海道美幌高等学校環境改善班
tel 0152-73-4136
fax 0152-73-4137
mail JUN-noguchi@
hokkaido-c.ed.jp



東京都文館高校とのザリガニ駆除交流会



木倉川でのニホンザリガニ生態調査

概要

- ◆ 美幌博物館、東京農業大学、網走川流域の会の三者で、特定外来生物ウチダザリガニ駆除と有効な活用方法の研究を実施。
- ◆ 駆除活動を通じ、網走川流域の自然環境の改善や地域住民との交流会等により流域環境の保全活動を広く発信。

成果

- ◆ 2015年から地域住民を対象として開始した交流会は、2018年からは幼稚園児から高校生までを対象とした活動に発展。
- ◆ 水系での活動範囲は2km²（平成27年度）から60km²（令和元年度）に大幅に拡大。交流会等の参加人数も15人から500人に増加。

観光農園アグリのおいらせ

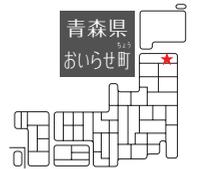


観光農園アグリのおいらせ 全景

コミュニティ部門

農福連携

6次産業化



〒039-2152 青森県上北郡
おいらせ町向山東 2 丁目 2 の
1684
tel 0178-56-2884
fax 0178-38-8830
mail info@agurinosato.jp



熱帯果樹園での収穫体験



住みよい地域づくりと美しい景観づくり推進活動

概要

- ◆ 生産者、障害者、教育、行政等と連携し「農業・地域・観光・福祉」をつなぎ合わせた観光農園を展開。
- ◆ 担い手確保や地域活性化を目的として「もち小麦普及委員会」を設立。休耕地の活用と農福連携による取組を実施。

成果

- ◆ 人口減少の中、毎年40万人以上が訪れる県内有数の観光スポットとして、また、地元の交流拠点や障害者・高齢者の活躍の場として発展。
- ◆ もち小麦の6次産業化により、地元を中心に22店舗、新商品40種以上を販売し、学校給食に採用されるなど、地元食材として定着。

みたねちょうもりたけ

三種町森岳じゅんさいの里 活性化協議会

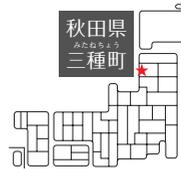


じゅんさい沼のPRポスター

コミュニティ部門

雇用

GAP



〒018-2401 秋田県山本郡
三種町鶴川字岩谷子8
三種町役場
商工観光交流課(内)
tel 0185-85-4830
fax 0185-72-1536



国内での商談会の様子



世界じゅんさい摘み採り選手権大会

概要

- ◆ 全国で生育が減少している「じゅんさい」の全国屈指の産地として、JGAP 団体認証を受け、生産の維持と地域活性化に向けて活動。
- ◆ 交流人口拡大や観光振興に向け、じゅんさい摘み採り体験や、世界じゅんさい摘み採り選手権大会といったイベントを実施。

成果

- ◆ じゅんさい摘み採り体験来場者は毎年1,000人を超え、交流人口の拡大に貢献。
- ◆ じゅんさい栽培を通じて、農家間の意見交換の場が形成され、農家間の連携が生まれた。



いしがき かずこ
石垣 一子

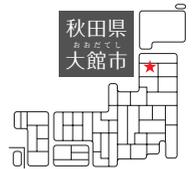


言葉から地域を伝える秋田弁ラジオ体操(本人:一番右)

個人部門

農泊

農村文化体験



〒017-0031 秋田県大館市上代野字
稲荷台1-1 大館市役所移住交流課(内)
大館市まるごと体験推進協議会
tel 0186-43-7149
fax 0186-48-6668
mail kouryu@city.odate.lg.jp



本場のきりたんぼづくり体験でのおもてなし



台湾での商談会で熱くPR

概要

- ◆ 農業体験や本場のきりたんぼづくり体験を核とした農泊等の受け入れ推進を図り、地域の活性化に努めている。
- ◆ 官民共同の「大館市まるごと体験推進協議会」の会長として、自ら台湾に出向いてPRキャンペーンを実現。

成果

- ◆ 外国人の宿泊者は、0人(平成28年度)から268人(令和元年度)に増加し、インバウンドの受け入れにつながった。
- ◆ 外国人宿泊者の国籍は28カ国にも増え、世界的なひろがりが出ています。



有限会社 マルセンファーム

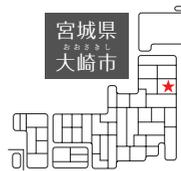


プレミアムトマトジュースを国内・海外へ

ビジネス部門

輸出

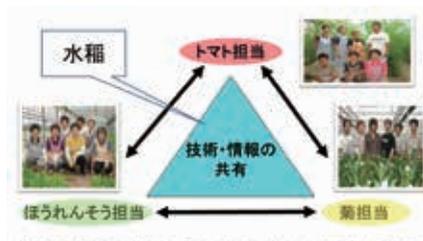
6次産業化



〒989-4106 宮城県大崎市
鹿島台字上志田 350
tel 0229-56-5269
fax 0229-56-6226
mail info@m-farm.jp



令和元年東日本台風により施設が浸水



複合経営で年間を通じた安定雇用を実現

概要

- ◆ 栽培が難しい高糖度トマトを経営の柱とし、「極上デリシャス」として差別化。菊やホウレンソウとの複合経営で安定雇用を実現。
- ◆ 令和元年東日本台風により全ての施設が浸水したが、約40人を継続雇用しながら復旧。これを機に首都圏スーパーに新規出荷。

成果

- ◆ 高糖度トマト以外にも果汁糖度で選別規格を定めたプレミアムトマトジュースを販売。最高級のジュースは1万5千円/本で販売。アルコールを摂取できないドバイの富裕層の取り込みにも成功。
- ◆ 海外からの研修生の受け入れ、農業大学校や農業改良普及センターの職員研修も受け入れ、技術・経営等の習得の地域拠点となっている。

あ い づ 会津よつば農業協同組合 いなわしろ 猪苗代稲作部会



ドバイの日本料理店に6次化日本酒を提供（中央：稲作部会会員）

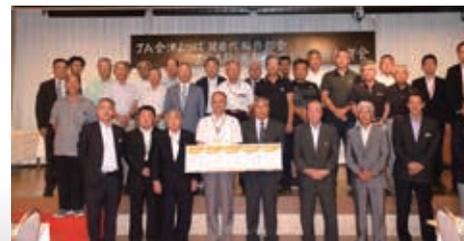
コミュニティ部門

輸出

6次産業化



〒969-3133 福島県耶麻郡猪苗代町大字
千代田字トウフケ 5番地1
会津よつば農業協同組合あいづ東部
営農経済センター
tel 0242-62-4211
fax 0242-62-4214
mail info@aizuyotuba.jp



JGAP（米穀）団体認証取得祝賀会



香港でシェフと会談する部会員とJA職員

概要

- ◆ 農業者とJAと町が一体で作上げたブランド米を活用した、世界を巻き込んだ地域活性化の取組を推進。
- ◆ ブランド米を原料とした日本酒を開発し、6次産業化にも取り組み、販路を拡大。

成果

- ◆ ブランド米「いなわしろ天のつぶ」や日本酒「純米吟醸・いなわしろ天のつぶ」は海外に輸出。
- ◆ 企業とも連携し、多方面への啓発・知名度向上により、福島県唯一のオリジナル米としてブランド米の地位を確立。

じゅっこくぼり

十石堀維持管理協議会

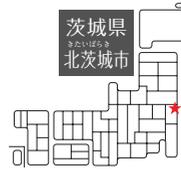


毎年十石堀で開催している小学生の校外学習

コミュニティ部門

環境保全

教育機関との連携



〒319-1592 茨城県北茨城市
磯原町磯原 1630 番地
北茨城市 農林水産課(内)
tel 0293-43-1111(内 387)
fax 0293-43-1108
mail nousui@city.kitaibaraki.
lg.jp



ボランティアによる親子参加のウォーキング



歴史や農地維持について地域で勉強会を開催

概要

- ◆ 十石堀は、江戸時代（1669年）に建設され現在に至るまで維持管理されてきている。昭和57年（1982年）に、維持管理と啓発を目的に協議会を設立し、エコツーリズムや地域学習等を開催。
- ◆ 十石堀の歴史だけでなく、炭鉱跡や地質遺産等を含めたエコツーリズムを行っており、地域観光の資源としての役割を果たす。

みらい

はやぶさ未来クラブ



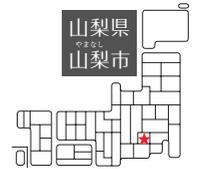
学生とブドウの収穫、時には障害者の皆様とも作業を行う

コミュニティ部門

人材育成

農福連携

6次産業化



〒103-0014 東京都中央区
日本橋蛸殻町 2-10-14-5F
tel 03-5643-5275
fax 03-5643-5276
mail info-hayabusa@fruits.jp



農業体験：ワイン用ブドウの収穫作業



規格外のブドウを利用した自社ワイン

概要

- ◆ 県のエコファーマーやアグリマスター（農業熟練者）に認定されたブドウ農家が、若者への農業指導を多く依頼される中、周囲の有志とともに農業が抱える諸問題に対応していくため設立。
- ◆ 農業体験希望者を受け入れ人材育成（農福連携を含む）、就農希望者には農業指導を実施。さらには、ブドウ以外の果物の栽培や、ワイン醸造に取り組み、経営強化を行う。

成果

- ◆ 人材育成として300人を超える高校生・高専生・大学生を受け入れ。脱サラを目指す社会人や、福祉事務所を通じて障害者も受け入れる。
- ◆ ブドウ栽培のみならず、人材育成やワイン醸造を手掛ける法人を更に2法人設立。ワインについては規格外ブドウ1tを活用した。
- ◆ 数少ない新規就農者をサポートできる体制を構築。

伊豆市食肉加工センター 「イズシカ問屋」



イベントでイズシカでPR

ビジネス部門

鳥獣害対策

ジビエ

〒410-2413 静岡県伊豆市小立野
24-1 伊豆市農林水産課(内)

tel 0558-72-9895

fax 0558-72-9909

mail nousui@city.izu.shizuoka.
jp

わな講習会実施風景



鹿肉・猪肉を加工したイズシカ問屋製品

概要

- ◆ 獣害対策として捕獲し、山へ埋却されていたシカ・イノシシを買い取り、解体・精肉・卸売を行う「イズシカ問屋」を設立。
- ◆ 地元高校によるメニュー開発や、小中学校での鳥獣被害対策の出前授業・試食を実施し、獣害対策と食肉利用の両面から若年層へPRを実施。また、住民への「鳥獣害対策勉強会」や「わな講習会」も実施。

成果

- ◆ センターに搬入されるシカ・イノシシは毎年1千頭前後となり、売上（ペットフード含む）は近年2,500万円を超えている。
- ◆ イズシカ問屋の稼働後、市内捕獲頭数は設立時から比べ約2倍となり、イズシカの取扱い販売店は設立時の3店舗から16店舗となるなど、年を追うごとに獣害対策及びブランド化が進んでいる。

こやなぎ しげる 小柳 繁

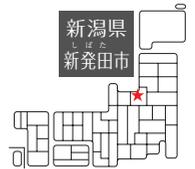


集会場前で撮った元気のいい上三光集落の参加者

個人部門

環境保全

農村文化体験

〒957-0331 新潟県新発田市
上三光793-3

上三光清流の会 小柳 繁

tel 090-5434-3185

mail 0808kanoz@gmail.com



田植え体験の前に撮った一般の参加者



耕作放棄地で栽培した地元産蕎麦を楽しむ

概要

- ◆ 地域資源を宝と捉え農業体験活動に取り組み、耕作放棄地の有効利用、獣害対策、集落再生と地域活性化を目指す。
- ◆ GISを活用した集落環境診断など、集落再生に向けた様々な取組を実施。

成果

- ◆ 田植えや稲刈り体験の他、柿酢作り、正月飾りなど集落資源を活用したイベントには、約200人が参加（令和元年度）。
- ◆ ビオトープへの再生などにより、耕作放棄地の解消面積は、0.4ha（平成27年度）から4.5ha（令和元年度）に年々増加。

あがの衆^{しゅう}

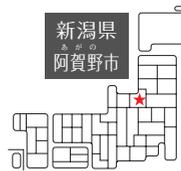


阿賀野市の食の匠集団「あがの衆」

ビジネス部門

6次産業化

企業との連携



〒959-1961 新潟県阿賀野市山倉
1912-1 (株) 佐藤食肉 (内)
代表 佐藤広国
tel 0250-63-8086
fax 0250-63-1348
mail hirokuni.satou@sato-shokuniku.com



毎月開催の飲食店への生産者見学ツアー



あがの風土キャラバン

概要

- ◆ 若手の経営者と農家が、それぞれの経営資源を連携することで、お互いの課題解決を図り、地域振興。
- ◆ 地元農家等による「あがの風土キャラバン」と連携し、都市住民が参加するイベントにおける地元ブランドの提供や田植え体験等を開催。

成果

- ◆ 開発したブランド牛「あがの姫牛」は、コロナ禍においても売上が増加し、5,000万円（平成28年）から1億8,000万円（令和元年度）に増加。
- ◆ 県内の飲食店を対象として、あがの姫牛を含めた阿賀野の農業・酪農PRを目的に体験ツアーを実施し、800人が参加（令和元年度）。

小菅沼・ヤギの杜^{もり}

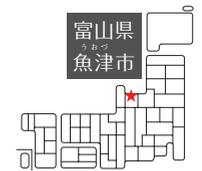


稲作アート田

コミュニティ部門

環境保全

食育・教育



〒937-0833 富山県魚津市
小菅沼 1122 番コラポルーム
tel 090-3297-7215
fax 0765-56-8944
mail shibasawa4838@grace.ocn.ne.jp



ハーブの利用方法等の説明を受ける参加者



にんにくを植付け次年度につなぐ

概要

- ◆ 少子高齢化・過疎化により耕作放棄地が増加し、集落の存続が不安視されていた中、原野化していた棚田を復元し作物を栽培。
- ◆ メンバー、農村サポーター等の参加で、作物の作付け・収穫体験や稲作アート等を行い、交流を促進。

成果

- ◆ 耕作放棄地を解消してコキアやハーブ等の作付けなどで有効活用。その面積は1.2ha（平成27年度）から3.3ha（令和元年度）に増加。
- ◆ 作付け・収穫、藍染め体験やほうき作りなどのイベントを開催。交流・体験参加者は150人（平成27年度）から800人（令和元年度）に増加。

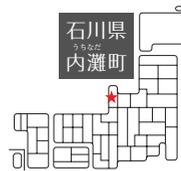
か さ ま れ い こ
笠間 令子



個人部門

農福連携

食育・教育



〒920-0263 石川県河北郡
内灘町湖西 85
株式会社笠間農園
mail komatsunanako@
kasamanouen.jp

農園従業員と施設外就労の障害者との写真（前列中央が本人）



地域の小学生が、毎年農業見学に来園



農福連携の一環で行う、小松菜の収穫作業

概要

- ◆ 農業の高齢化を農福連携で補うことで、農業の発展及び地域の活性化に貢献し、施設外就労で共生社会を実現。
- ◆ 農福連携として年間 6 施設と関わり、収穫物の 6 次産業化や小中学生等への食育も実践。

成果

- ◆ 障害者や高齢者が活躍できる場を提供しつつ生産量も増やし、農福連携の委託料は 40 万円（平成 29 年度）から 153 万円（令和元年度）に増加。
- ◆ 県農福連携促進アドバイザーとしてマッチングに関わっており、県内のマッチング数は、9 件（平成 29 年度）から 50 件（令和元年度）に増加。

お は ら え こ
小原 ECO プロジェクト



コミュニティ部門

農泊

環境保全



〒911-0031 福井県勝山市
長山町 2 丁目 2-21
小原 ECO プロジェクト 國吉一実
tel 0779-88-1517
fax 0779-88-1517
mail ohara-eco@nifty.com

福井工大生による伝統的古民家の修復再生活動



国際ワークボランティアの棚田保全・農作業支援



希少種ミチノクフクジュソウ保全活動

概要

- ◆ 小原集落を拠点とし、都市住民との交流による地域活性化、自然資源の保全・保護等を目的に活動。
- ◆ 明治時代以降に建築された県内唯一の建築様式を取り入れた古民家を福井工業大学の学生と協力して修復。

成果

- ◆ 過去 5 年間、毎年 1,300 人以上（令和元年度：1,350 人）が地域に来訪しており、エコツアーには毎年 300 人以上（令和元年度：320 人）が参加。
- ◆ 地域に生息する絶滅危惧種のミチノクフクジュソウの保全活動には、NPO 関係者や小学生など毎年 130 人以上が参加。



岐阜県立岐阜農林高等学校 流通科学科

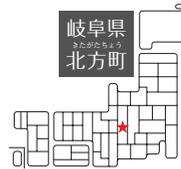


オリパラホストタウンとしてカナダ人への GAP 食材を利用した「神前結婚式」のおもてなし

コミュニティ部門

若者の活躍

GAP

〒 501-0431 岐阜県本巣郡
北方町北方 150 番地

tel 058-324-1145

fax 058-323-1650

mail p33616@gifu-net.ed.jp



JGAP 果樹の栽培管理風景



明治記念館にて岐阜の農産物 PR

概要

- ◆ 地域農家に GAP 認証のノウハウを公開するなどの支援を行い、農家の GAP 認証取得に貢献。
- ◆ 官民一体となり、オリパラのホストタウンとして GAP 食材を使ったおもてなしを企画。GAP 認証の柿によるパスタ開発、品質管理を徹底した新品種米の普及等を行う。

成果

- ◆ 農林水産省「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」生産局長賞、内閣官房「GAP 食材を使ったおもてなしコンテスト」事務局長賞、「お米甲子園」「日本一おいしいお米コンテスト」W 受賞等。
- ◆ GAP 認証活動面積は、2.5ha（平成 29 年度）から 63ha（令和元年度）まで拡大。

えのきまえ

榎前環境保全会

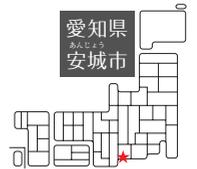


水田魚道観察会 大人も子供も興味津々

コミュニティ部門

環境保全

高齢者の活躍

〒 444-1214 愛知県安城市
榎前町北榎 14 番地 1

tel 0566-92-0071

fax 0566-92-0071

mail enokihozenkai@katch.ne.jp



どじょうの育み米の栽培団地 < 水田魚道の観察水田 >



イベントでのおにぎり作りが非常時の炊き出し訓練となる

概要

- ◆ 平成 14 年より「いつでも福祉・いつでも防災・いつでも環境」をコンセプトに地域内のふれあい活動を開始。平成 18 年に水田魚道を設置し、平成 19 年に農地・水・環境保全向上対策（現・多面的機能支払交付金）の活動組織を設立。
- ◆ 魚道観察会や季節の祭り等を開催。減農薬米「どじょうの育み米」をブランド化、ふれあい活動で広報紙発行や異世代交流会等を実施。保全活動において耕作放棄されていた田畑でサツマイモや大豆を栽培。

成果

- ◆ 魚道観察・生き物観察には毎年 300 ~ 400 人が参加。「れんげまつり」・「ひまわりまつり」には毎年 1,500 人程度が参加している。
- ◆ 「どじょうの育み米」は消費、防災用備蓄の他、米粉入りパンに利用。
- ◆ 「豊かなむらづくり全国表彰事業」農林水産大臣賞等を受賞。

くわな 桑名もち小麦協議会



地元の特別支援学校の生徒による昔ながらの麦ストロー作り

ビジネス部門

新しい産地づくり

食育・教育



〒511-0838 三重県桑名市和泉
377-1 株式会社保田商店 素材舎
tel 0594-22-6251
fax 0594-22-6250
mail info@sozai-ya.jp



古民家を活用したカフェでもち小麦メニューを開発



香港・台湾の展示会に出展

たかはし ゆきてる 高橋 幸照



立梅用水の歴史を伝える高橋さんの紙芝居

個人部門

地域づくり

6次産業化



〒519-2211 三重県多気郡多気町
丹生 1620-3
一般社団法人ふるさと屋
tel 0598-67-5457
fax 0598-49-4828
mail info@furusatoya-taki.com



絶品の米粉パン「たぎパン」



ふるさと勢和の様子

概要

- ◆小麦卸売、地元農家、パン屋による「桑名もち小麦プロジェクト」に加え、県、市、商工会、JAの連携により「桑名もち小麦協議会」を平成29年に設立。
- ◆地元でのPRイベントの他、首都圏・海外（台湾等）へも展開。
- ◆地元学校との協力や農福連携も実施。

成果

- ◆令和元年度において、もち小麦の出荷量は15t（4年で2.5倍）、使用する飲食店等は50店（4年で5倍）、首都圏や台湾でも販売。
- ◆アンテナショップのメニューを地元高校と検討、麦を使ったストロー生産を特別支援学校と連携する等、教育や福祉との連携も進む。

概要

- ◆農家の高齢化、後継者不足が進む中、福祉活動のため一般社団法人「ふるさと屋」、農地の利用集積等のため農事組合法人「元丈の里 営農組合」を立上げ。
- ◆6次産業化（米粉パン、日本酒）の立上げ、都市農村交流（まつり、視察ツアー）の企画、企業との連携（発電、観光）推進等を手掛ける。

成果

- ◆福祉活動や農業の担い手を確保。
- ◆あじさいまつりは1日1万人の人出となるイベントに昇華。特産品や米粉パンの売上は年間250万円を超え、地域活性化に貢献。

やま と 大和平野土地改良区

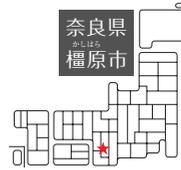


稲刈り体験（刈り取った稲の結束を教わる様子）

コミュニティ部門

環境保全

農村文化体験



〒634-8560 奈良県橿原市
城殿町459

tel 0744-22-2052

fax 0744-22-1624

mail kanribu@yamatoheiya.
or.jp



源流体験（水生生物の観測）



吉野川分水歴史展示館による新たな情報発信

概要

- ◆ 水の恵みを受ける者と育む者として水のつながりを軸とした交流を図り、吉野川分水のありがたみを伝える。
- ◆ 小学生を対象とした源流体験や田植え・稲刈り体験、一般募集による源流トレッキングツアーなどにより、環境意識を高める取組を実施。

成果

- ◆ 田植え、稲刈り、源流トレッキング等の参加者数は、45人（平成27年度）から106人（令和元年度）に増加。
- ◆ 令和2年度に吉野川分水歴史展示館をオープンし、子供から大人まで「楽しみ・学び・親しんでいただける場」を提供し情報発信。

ニシオサプライズ株式会社

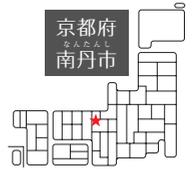


1号店（美山 FUTON&Breakfast）の外観

ビジネス部門

農泊

環境保全



〒601-0751 京都府南丹市美山町
島英サ29 かやぶき一棟貸しの宿
美山 FUTON&Breakfast

tel 0771-75-5125

fax 050-3737-2389

mail info@yaneharu.com



宿泊施設の囲炉裏でくつろぐ観光客グループ



100% 地域の食材を使った朝食の提供

概要

- ◆ 空家となった茅葺き民家を一棟貸し宿に改修し、町の飲食店と連携することにより、地域全体をホテルとして運営。
- ◆ 一棟貸し宿では、地域産品を100%使用した朝食や、地域飲食店と提携したケータリングの提供等を実施。

成果

- ◆ 茅葺き一棟貸し宿を利用した宿泊者数は、1,637人（平成27年度）から2,388人（令和元年度）に増加。
- ◆ 廃屋化していた空き家の再生等により、現在4棟の一棟貸し宿を運営、売上高も大幅に増加。

福良漁業協同組合

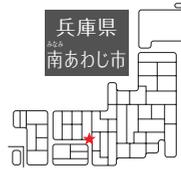


淡路島3年とらふぐを使った料理

ビジネス部門

6次産業化

企業との連携

〒656-0503 兵庫県南あわじ市
福良丙28番地

tel 0799-52-0064

fax 0799-52-1047

mail fukugyo@aito.ocn.ne.jp



淡路島サクラマスを使った料理



淡路島3年とらふぐで食育の授業

概要

- ◆「淡路島3年とらふぐ」等の養殖を起点として、6次産業化や企業との連携等を通じた地方創生に取り組む。
- ◆旅館、ホテル、飲食店等、地元の企業との連携によるご当地メニューの開発のほか、地元学校給食への提供を通じた食育にも取り組む。

成果

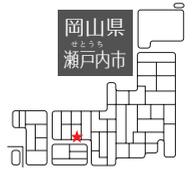
- ◆養殖の困難な3年物のとらふぐやサクラマスの養殖技術を確立し、ブランド化に成功。これらの加工・販売事業の売上高は、1.5億円（平成27年度）から2.3億円（令和元年度）に増加。
- ◆淡路島内のホテル・旅館・飲食店等で開発されたご当地グルメのメニュー数は、23（平成28年度）から82（令和元年度）に増加。

裳掛地区 コミュニティ協議会

コミュニティ部門

環境保全

移住定住

〒701-4221 岡山県瀬戸内市邑久町尾張
300-1 瀬戸内市役所企画振興課内

tel 0869-22-1031

fax 0869-22-3304

mail info@mokake.com

URL <http://www.mokake.com>

移住者受入れのための空き家を整備



移住フェア会場と地元をネット接続



道の駅での映画上映イベント

概要

- ◆移住者の受入による地域人口の維持を主眼に、情報発信や空き家等の整備、外部との交流などを実施。
- ◆地域独自の寺子屋「もかけてらこや」の開設や、小学校支援地域本部の設置を通じた支援なども実施。

成果

- ◆地域誌の発行などにより、農業体験の受入れや地域行事への大学生ボランティアの受入れが、12回（平成27年度）から40回（令和元年度）に増加。
- ◆平成26年に補助事業で古民家を整備し、交流者や移住希望者、就農希望者の滞り場所として活用する拠点を整備。

株式会社ウッドスタイル



加工前後の竹の形状とイタリアインテリア雑誌 DDN の表紙掲載

ビジネス部門

環境保全

輸出

〒690-0811 島根県松江市福原町
20-5

tel 0852-34-9777

fax 0852-34-0007

mail info@wood-style.com



2017年のミラノ・サローネ出展



地元小学生と共に石見銀山の竹の伐採

概要

- ◆ 丸い竹を平らにする事により「新素材」として新しいマーケットを広げ、家具や建材等に竹を有効活用。
- ◆ 竹の伐採・利用により、放置竹林の解消や石見銀山世界遺産センターの展示仕器の新設など地域に貢献。

成果

- ◆ 竹平板家具の売上高は、2万円（平成27年度）から160万円（令和元年度）に増加。
- ◆ 農家から竹を市価より高価格で買い取りすることで、農家の収入増加に貢献。孟宗竹の購入量も200本（平成27年度）から900本（令和元年度）に増加。

あきかわぼくえん



株式会社秋川牧園と 飼料用米生産者グループ

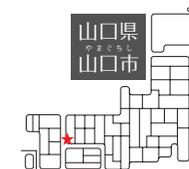


飼料用米生産者グループ

コミュニティ部門

6次産業化

環境保全

〒753-0303 山口県山口市
仁保下郷 10317

tel 083-929-0630

fax 083-929-1313

mail info@akikawabokuen.
co.jp

令和元年度からは、海外輸出も開始（写真は香港）



本取組による飼料用米を給餌する国産鶏種「丹精國鶏」

概要

- ◆ 6次産業化を達成している畜産業者が、近隣農家とともに鶏に食べさせる餌まで作る、7次産業化の取組。
- ◆ 飼料用米の生産・活用により、耕作放棄地の解消や環境・景観の保全、地域資源を活用した循環型農業の実現に貢献。

成果

- ◆ 飼料用米の作付面積は、80ha（平成27年度）から134ha（令和2年度）に増加。
- ◆ 令和元年度から飼料用米を食べさせた鶏卵の輸出を開始し、約90万円の売上を達成（令和2年度は約100万円の見込み）。



ご っ っ お あ わ GOTTSO 阿波



2020 年度のポスター

ビジネス部門

農産物のブランド化

食育・教育



〒771-1707 徳島県阿波市
阿波町東原 173
(一社) 阿波市観光協会内
tel 0883-35-4211
mail gottsoawa@gmail.com



地元幼稚園・小学校での食育活動



南池袋公園(東京)でマルシェ開催

概要

- ◆地域のPRや食育、農業・野菜の魅力を発信し、所得向上や農業人口の増加を目指して活動。
- ◆地元ブランド野菜を使った地元幼稚園・小学校での食育や、オリンピックでの納品を目指したグローバルGAPの取得を実施。

成果

- ◆地元ブランドである「GOTTSO 美〜® ナス」の生産量は、48t(平成27年度)から150t(令和元年度)に増加。
- ◆メンバーが出張販売などのPR活動を行う「まちのPR隊」の活動回数は、3回/年(平成27年度)から12回/年(令和元年度)に増加し、野菜の力によるまちおこしに貢献。

き さ わ 木沢林業研究会



ミツマタの白皮剥ぎ作業は、人の手で丁寧に仕上げる

コミュニティ部門

新しい産地づくり

鳥獣害対策



〒771-6114 徳島県那賀郡那賀町沢谷字井元 34
tel 090-5716-2245
fax 0884-65-2022
mail kamei@ts-wood.or.jp



シカ食害のひどい山地で他団体との交流植林体験



徳島の名産品コラボ 藍染ミツマタ

概要

- ◆シカに食害されないミツマタに着目し、生産から出荷・商品開発まで取り組み、限界集落の活力を取り戻す。
- ◆ミツマタの新商品の開発・流通に成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする場が増加。

成果

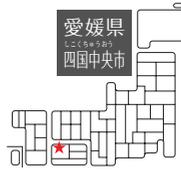
- ◆植栽したミツマタが平成29年から収穫できるようになり、令和元年度には、ミツマタの白皮製品60kg、枝180束を出荷。
- ◆平成30年は作業効率を向上することができたほか、新商品の流通にも成功し、ミツマタを那賀町の名産品としてPRする場が増加。

愛媛県立土居高等学校 情報科学部



インバウンド盆栽ツアープランの商品化

- コミュニティ部門
- 若者の活躍
- 伝統の継承



〒799-0701 愛媛県四国中央市
土居町中村 892 番地
tel 0896-74-2017
fax 0896-74-7221
mail tokunaga.shiyu@gmail.com



多文化共生に向けたグローバル・パーティー



オンラインで繋がった参加者 (全国高校生 SBP フェア)

概要

- ◆ 地元が日本 3 大原産地の一つである五葉松の盆栽農家が存続の危機に直面している危機感から、存続に向けた取組を実施。
- ◆ インバウンド盆栽ツアーの実施や、コロナ禍におけるオンラインの活用により地方創生に貢献。

成果

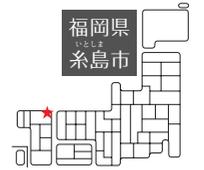
- ◆ 地元特産の赤石五葉松を核とした広域連携型盆栽ツアーを開催し、参加した外国人による SNS を通じて五葉松盆栽と日本の盆栽文化を世界に発信。
- ◆ コロナ禍のなか、ZOOM を活用したバーチャル観光体験を実施し、子どもたちにも地元盆栽文化の魅力を発信。

株式会社 いとしのいとしま



地魚のみを使う海鮮丼

- コミュニティ部門
- 農泊
- 伝統継承



〒819-1311 糸島市志摩津和崎 33-1
tel 092-324-1022
mail takashi_mabuchi@yahoo.co.jp



伝統漁法について学び旅する「うお旅」



九州大学の留学生を対象にした地魚握り体験

概要

- ◆ SNS 等を通して漁業が抱える課題を伝え、会員から資金・アイデア等を集め、問題解決に向けた新サービスを開発。
- ◆ 「地魚博覧会」、「地魚大運動会」等の開催を通じて、糸島の地魚の魅力を伝えることで、美しく伝統ある農山漁村を次世代に継承。

成果

- ◆ 地魚を使った飲食店、加工品事業により、年間 3,500 万円の売上を達成 (令和元年度)。
- ◆ SNS 会員数は 100 人 (平成 30 年度) から 300 人 (令和元年度) に増加し、会費やクラウドファンディングにより、出資金は、約 60 万円 (平成 30 年度) から約 200 万円 (令和元年度) に増加。

郷土の家庭料理 ひまわり亭

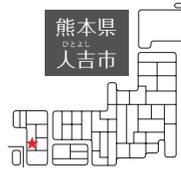


仮設住宅で被災者とふれあいのひととき

ビジネス部門

農泊

6次産業化

〒868-0075 熊本県人吉市矢黒
町字西の園 1880-2

tel 0966-22-1044

fax 0966-32-9077



豪雨災害時のキッチンカーによる炊き出し



小学校教育旅行 災害食の実践

概要

- ◆ 配食を通して、地域の高齢者の見守りなどを行うボランティアグループからスタート。更に法人を設立して、自立した稼ぐ農山村コミュニティビジネスを実施。
- ◆ 築120年の古民家を移築・改修し、郷土の家庭料理でもてなす農家レストランを開業し、農泊の拠点として活動。食育や総菜の製造・販売も実施。

成果

- ◆ 平成28年の熊本地震、令和2年の豪雨災害の際には、自ら被災しながらも、被災者への炊き出しや支援物資の配布等を実施。
- ◆ 災害による売上減はあったものの、レストラン部門、お弁当・総菜部門、体験研修部門等において、一定の収益や参加者を確保。

しろう農園株式会社

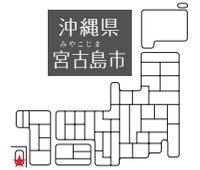


アロエベラ畑の除草にヤギを活用

ビジネス部門

6次産業化

農村文化体験

〒906-0203 沖縄県宮古島市
上野字宮国 177-2

tel 0980-76-3546

fax 0980-76-3678

mail hiroshi@shirou-nouen.com



特殊製法で作られたアロエベラ 100% 原液



地元従業員でアロエを加工

概要

- ◆ 日本最大規模でアロエベラを栽培し、生産されたアロエの新商品開発やECサイト販売等で6次産業化を推進。
- ◆ ヤギにアロエ畑の除草管理をさせ、糞を堆肥にして畑に戻す無農薬循環型農業を行うとともに、ヤギとふれあえる観光牧園を開園。

成果

- ◆ アロエ事業の売上高は、200万円（平成28年度）から1,700万円に増加（令和元年度）。
- ◆ コロナ禍においてもECサイトでの売上やメーカーからの受注が好調であり、EC販売は前年度比2倍以上の売上。
- ◆ 現在10名の地元出身者を雇用。今後さらなる地元雇用を検討。